

# 天の岩戸

(あまのいわと)



「古事記」神話を題材として、太陽の神を讃え、日本人の自然崇拝の源を伝える演目です。

～あらすじ～

弟の須佐之男命(すさのおのみこと)の悪行を嘆いて、太陽の神様天照大神が天の岩戸に隠れてしまったため、この世は闇に包まれてしまいました。困った神々は、天照大神を誘い出し、再び世の中を輝かすために天宇受賣命(あめのうずめ)に舞を踊ってもらうこととなりました。外の華やいだ雰囲気になり、女神が岩戸を少し開けたところか自慢の天手力雄神(たちからおのみこと)がこじ開け、世の中が再び光に満たされます。